

“やっちゃんえ” 鳴高！ ～鳴高生のみなさんへ校長メッセージ～

鳴尾 高等学校

笑顔

夢

プロジェクト

最終号

「鳴尾力」を鍛えて育てる！ Part 3 鳴高生から学ぶ

普通科 2年生 山口 伊織 さん (放送部)
国際文化情報学科 2年生 井上 秀隆 さん (放送部)

81年前の西宮への空襲で爆撃された痕跡が残るコンクリート製の橋が昨年11月に学文殿公園の入り口に移設され、「戦争遺跡」として保存されました。1月25日に開かれた「記念の集い」に、この「橋」の保存活動を手がかりにドキュメンタリー作品「継(つぐ)」を制作した放送部も参加し、「継」の上映後、制作に関わった放送部一人ひとりから言葉を求められました。その時の思いを井上さんは「小さい頃より祖母から聞いていた戦争の話しがちょうど鳴尾のこの辺りで、大好きな祖母の生きた時代を知りたいと取り組んできた。話しをするうちに色々な思いが溢れてきた。」と話してくれました。山口さんからは「『継』のドキュメントを観た方から、“これからが頼もしい高校生”“これからを背負ってくれる”“未来ある高校生代表”と褒められることが多くあったが、あくまでドキュメントを制作しただけで、どの高校生も戦争のことを考える機会があればよかったこと。私たちは機会があって考えることができた。」と、決して自分は特別な高校生ではなく、普通の高校生なんだという言葉が印象的でした。

<中田さんからのメッセージ>

「特定の人だけが頑張るんじゃないで、鳴高生みんなが自分達で考えて、変ろうとする学校にしたい。」



<質問コーナー>

【Q】そもそも、「鳴尾力」って何ですか？
【A】この校長メッセージは、昨年度「D.A.F.鳴高！」からスタートしましたが、この2年間、「鳴尾力」を鍛えて育てる！をテーマに発信してきました。参考：[D.A.F.鳴高！ 5月号](#)
「D.A.F.鳴高！」は、Dynamic (行動的) で、Aggressive (積極的) で、Flexible (柔軟) な鳴高生を鍛えて育てるというメッセージを込めたタイトルでした。今年度から「やっちゃんえ 鳴高！」にリニューアルしましたが、ベースの思いは同じです。最終回は「鳴尾力」のある鳴高生を紹介します！ さて、あなたはどうかどう在りたいですか？

【鳴高トピックス】

back number

- ☑ Machigaku2025 との連携 鳴高つながるプロジェクト 「海外留学経験者から学ぶ、留学のイロハと体験談」(R8.2.3火 7限) 学科1年生
- ☑ 兵庫県高等学校探究活動研究会に参加 (R8.2.11水祝) @神戸国際会議場 1年生 大野 蒼偉 さんが、鳴尾高校を代表して参加し、探究活動ワークショップや、日頃から取り組んできた探究活動の成果をポスター発表しました。兵庫県下の高校生と交流することができました。

<山口さんからのメッセージ>

「ひとつのきっかけがあれば、人は考えて、感じて、変ることができる。」

空襲による弾痕を残す橋の案内板に記された説明文を朗読する県立鳴尾高校放送部の部員。いずれも西宮市



2026年2月17日付け 朝日新聞 朝刊に掲載された武部真明記者の記事から写真を引用させていただきました。

普通科 2年生 中田 千鶴 さん (生徒会副会長)

4人全員が運動部に所属していますが、ランチミーティングや放課後に集まり、生徒会と生徒部の先生でディスカッションしながら提案書を作っています。その一つが『校則』についてです。会計長の松田さんが役員選挙で「私服登校の実現」を公約に掲げていたのがきっかけで、目安箱にも「下校時の体操服下校」について具体的な提案があり、現在、生徒部の先生と実施に向けた検討を進めています。二つ目は『鳴高祭での模擬店』についてです。鳴高祭に模擬店がないと聞いてショックを受けた中田さんは、生徒会選挙で「鳴高祭で模擬店を実施する」を公約に掲げました。夏休み前のタイミングで、地域の方から“わくわく祭り”に模擬店を出してみませんかと募集があったとき、これだ！と思わず手を挙げました。暑い時期に何を販売すればよいか、衛生面や食中毒、価格設定、味にもこだわり抜き、やり抜いた結果、なんと実利益 14,000 円の売り上げ！そのノウハウを来年の鳴高祭に向けた提案に活かしています。放課後思わず時間が過ぎて真っ暗になるまで話し合っているとき『めっちゃ青春してる』と感じるのだから。素敵ですね。



3D プリンターで大野さんが製作した作品「下校当番」を手に持って